

住み慣れた地域でその人らしくいられることの大切さ。

だいじょぶにゃん通信

2021年4月1日第7号〔年2回春・秋発行〕のぞみホームは1993年7月1日この地に生まれ27歳になりました！

「だいじょぶにゃん通信」1年ぶりです。前回に続きまたまた春号となりました。今年もよろしくお願いいたします。
「みんなのハウス」でもこの1年コロナ禍の影響を受け2020年2月26日からお茶会や歌声喫茶などのサロン活動、てんぶらの会などの地域食堂やハーモニカクラブ、手仕事の会などへの活動場所の提供をみあわせることになりました。ただ、ハウスも締め切切りだと寂しいので毎朝カーテンだけは開け（玄関は開かないけど。）現在は密にならない1対1のギター教室。集まっても今のところ3人だけの居場所活動「いらっしゃーい」は再開しているところです。

ここで「みんなのハウス」の経緯を少々。

今「みんなのハウス」が建っている場所はそまのぞみホームを応援する会の人たちが林を伐採して整地してくれたホームの駐車場でした。

その駐車場に経緯を知らない2代目理事長が書斎となる建物を建てちゃいます。えーっと思ったのですが、「のぞみホーム」は1999年にNPO法人を取得。2000年から始まる介護保険に向けてホームの改修工事をする事になり、ホームが2か月間使えなくなる事態が発生。まるでこのために書斎を建ててくれたのかというぐらいのタイミングです。2か月間その書斎をお借りし急場をしのごうことができました。新体制でこれからだという時だったのですが

2001年1月に2代目理事長が急死されてしまいます。そして「のぞみホーム」がその書斎を譲り受けることになったのです。

ちょうどそのころ「のぞみホーム」のお年寄りも満杯の状況。そこで「みんなのハウス」を6人が泊まれる建物に改築し「なんちゃってのぞみ」と名づけ活動が始まりました。しかしホーム始まって以来の多額の借金。「利子はいいよ。」と言って下さる恩師やスタッフの身内からもお借りし、借りたからには早くお返しなくては…と返済のためにあの時はほんとに頑張りました。まだのぞみホームを応援する会が少しでも活動費の足しにとペットボトルを集めてその報奨金をのぞみホームに寄付してくれる活動を9年間続けてくださいました。

2009年に「なんちゃってのぞみ」は「みんなのハウス」に改名、同時に活動の中身も「地域のために…地域の人と一緒に…」ということになったのです。

なぜならたくさんの方々にお世話になりました。応援してもらってるありがたい。「みんなのハウス」は「地域の何かを、誰かの何かを」応援します。という建物なのだと思います。

人生がわくわくするような何かを皆さんと一緒に考えていきたいと希望いたします。

（のぞみホーム 奥山 久美子）



ごあいさつ

お世話になっています。のぞみ会の理事の高橋です。わたしは仙台に住んでいるので、しょっちゅうのぞみに来るわけではありません。理事としては、運営のことなどいろいろ心配事はあるのですが、のぞみホームに来るとホッとします。以前は、と言ってものぞみができて間もないころなので、20年以上前ですが、のぞみに何度か泊まったことがあります。朝、猫が起こしに来たこともありました。わたしは大学で社会福祉を教えていて、仕事から高齢者施設に泊まらせていただくこともあります。猫に起こされたのはのぞみだけです。のぞみホームができた27年前、のぞみのようなアットホームな高齢者の居場所は、全国に数えるほどしかありませんでした。その当時は、認知症になるとおしまい、なにもわからなくなって

しまふ、してあげられることはないというのが常識の時代でした。そんななかで、認知症があってもその人なりにのんびり暮らせる居場所ができたのです。突然変異ですね。

のぞみは介護保険の小規模多機能型居宅介護ができるときのモデルの一つなのですが、制度化されると、のぞみのもつ自由さがなくなったサービスになってしまいました。のぞみは小規模自由なんですね。福祉制度とはあまり相性の良くないのぞみですが、地域とは相性抜群です。

シルヴァスタインの『おおきな木』(The Giving Tree)という絵本があります。少年が成長し、老いていくまで見守ってくれる一本の木の話です。のぞみは、ちいさな『おおきな木』のように思っています。しかし、のぞみの物語はまだまだ終わっていません。

のぞみ会理事 高橋 誠一

（東北福祉大学 総合福祉学部教授）

2020年度

コロナ禍の中での

活動の報告

2020年2月末からコロナのため活動が自粛となりました。それでも日常生活の中にちょっとした楽しみを求めて試行錯誤。コロナの状況を見ながら活動した1年となりました。

「応援する会」とペットボトル集め頑張ります！



マスクにお世話になりっぱなしの一年でした。

4月

だいじょぶにゃん通信6号発行。
春号です。

5月

太平山にドライブ。
名物の団子と卵焼きで満足＆満腹

6月

軽トラ1台所有。

7月

4Pに
詳しい記事が
あります

8月

障害児一時預かり。
今後の活動にむけて展開中。

9月

10月

のぞみ会第22回理事会
『三密』回避のため、終了後すぐに解散。

11月

秋の旅行

12月

焼き芋大会

大掃除
全員参加の一斉大掃除をそれぞれの
時間で割り当て大掃除に変更。

クリスマス会

1月

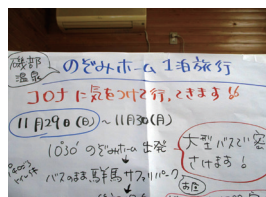
お正月は^{すあま}寿甘づくり

2月

豆まき

3月

避難訓練



秋の旅行

楽しみだった一泊
旅行は大型バスで
密を避けての日帰
り旅行に変更です。



クリスマス会

わいわいクリスマス会をぎゅっと短
縮クリスマス会に変更。





焼き芋大会

地域の方々と餅つき大会はホームだけの焼き芋大会に。焼き具合はどうか？



豆まき

鬼は一外！福は一内！



母と妹と猫と自分と…

ご利用者・スタッフ家族
両角則久

のぞみホーム「洗濯物担当」両角志津香の兄両角則久です。いつも妹と母が大変お世話になっております。妹は生まれたときから身体が弱く病気がちでした。特に冬場の寒い時期になると風邪をひき少しでもこじらせてしまうという間に肺炎になってしまい入院してしまうのです。なので母はいつも妹の体調を気にかけ心配し、本当に大切に育ててきました。そんな母の努力が実ったのか、妹の体も昔に比べると本当に丈夫になりました。もちろん今でも気を使うことは多いですが。

身体が弱く周囲の方々に支えていただいていた成長してきた妹が、お年寄りのお世話をする施設にスタッフとして参加させていただいていることは、妹の成長を実感することが出来て自分にと母にとって本当に感慨深いものがあります。本当に感謝しております。最近では母も介護が必要になりました。家では主に妹が世話をしてくれており大変頼もしいです。昔のままの妹だったら無理だったかも知れませんが。のぞみホームのスタッフの方々、利用者の方々、関係者の方々と関わりで成長できたおかげだと思っています。母の献身で成長できた妹が、立場が変わって今度は母の面倒をみられるのも直接恩返し出来て双方にとって幸せな事だと思っています。もちろん妹に負担をかけ過ぎないように、そして母も穏やかに過ごせる様に自分も頑張っていきたいと思っています。

母と妹と猫と自分とで穏やかに過ごしていきたいと思います。これからもよろしくお願ひ致します。



今年ものぞみホームは全力前進！

新年度の予定

6月 バーベキュー



のぞみホームのお庭で
お年寄りとバーベキュー！

7月~ 夏休み企画



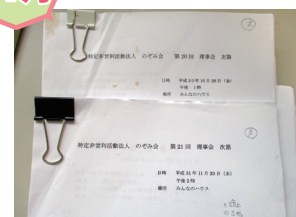
ハウスのデッキはかき氷屋さん。
どなたでもどうぞ！

9月 のぞみホーム 初秋の一泊旅行



今年はどこに行くのかな？
秋のわくわく一泊旅行！

11月 第24回 のぞみホーム理事会



のぞみホームの運営のための
大切な会議です。

12月 共同火災訓練



地域の方々といっしょに
万が一に備えましょう。

12月 年末大掃除



みんなで協力！綺麗なホームで
新しい年を迎えます！

12月 お楽しみ会



大掃除の後はみんなでわいわい楽
しみましょう！

12月 餅つき大会



「応援する会」の皆さんと
毎年恒例の餅つき大会。



コロナ禍の中、前に進むために 「のぞみ」のこれから

のぞみ会理事長 渡辺 みゆき

日頃よりのぞみホームを応援していただき心より感謝いたします。

昨年から新型コロナ禍の中私たちの生活は一変しました。先の見えない不安が多
くのストレスになっています。のぞみホームで暮らしている方々へも外出の制限だ
ったり、楽しみにしているイベントができなかったり不便をかけています。

介護の仕事はソーシャルディスタンスが取りにくい状況です。利用者の方たちを守
り、そして自身や家族も守らなくてはならない。

マスクごしの笑顔、話をしたくても会話にならないなど、支援の在り方をし
っかりと考えながら、今できること自然体の介護をさりげなく実施しています。



始めます!

障がい児者支援開設

2021年4月から 重症障がい児者医療的
ケア支援事業を始めます。

医療的ケアを必要とする重症障がい者又は
障がい児に対し日中における活動の場を確
保してその家族の就労支援及び日常的に介
護している家族の疲労回復や自由な時間の確保
を目的とします。難しい要綱は全部書けませんが、
今の「のぞみ」これからの「のぞみ」ができることから
始めましょうということによって一歩進んでみます。

コロナが落ち着いたら...

弁当作り、のぞみうどん屋をや

りたいと思ってます。やっぱり「のぞみ」
はいっぱいいろんな人たちがワイワイ集ま
る場所になることが大切だと思います。コ
ロナの落ち着きを待ってないで、少しずつ
始めているかもしれません。その時は
よろしくお願いします。



だいにゃんにゃん通信

発行 特定非営利活動法人のぞみ会
六美南部地区の地域福祉を考える会
〒321-0216 栃木県壬生町壬生丁 145-10
TEL 0282-82-7204 FAX 0282-82-7254
発行人 渡辺 みゆき
編集 だいにゃんにゃん通信 編集部 奥山 久美子
協力 六美南部地区自治会
のぞみホームを応援する会
URL <http://www.nozomi-h.org>
MAIL nozomi-h@guitar.ocn.ne.jp

2020年 7月 1日は「のぞみホーム」27歳の誕生日でした。だから何があった
というわけでもないのだけれど、のぞみホームの誕生日が近くなると宇井さ
んご夫婦に会いたいなという思いが強くなります。「これから「のぞみ」が
あるように、名前はのぞみホームがいいでしょう」と言っていた宇井俊一さ
ん。ニコニコといつも笑顔でミカンの花を歌っていた宇井久さん。お二人の
在宅生活を支えながら「のぞみホーム」も成長してきました。お年寄りミ
カンの花を歌ったり宇井パパさんの大好きだった「うまいせんべい」を食べ
ながら、人を支えていくことや人に支えられていることについて改めて思い、
これからも「のぞみホーム」に「のぞみ」がありますようにと願っちゃうので
した。

